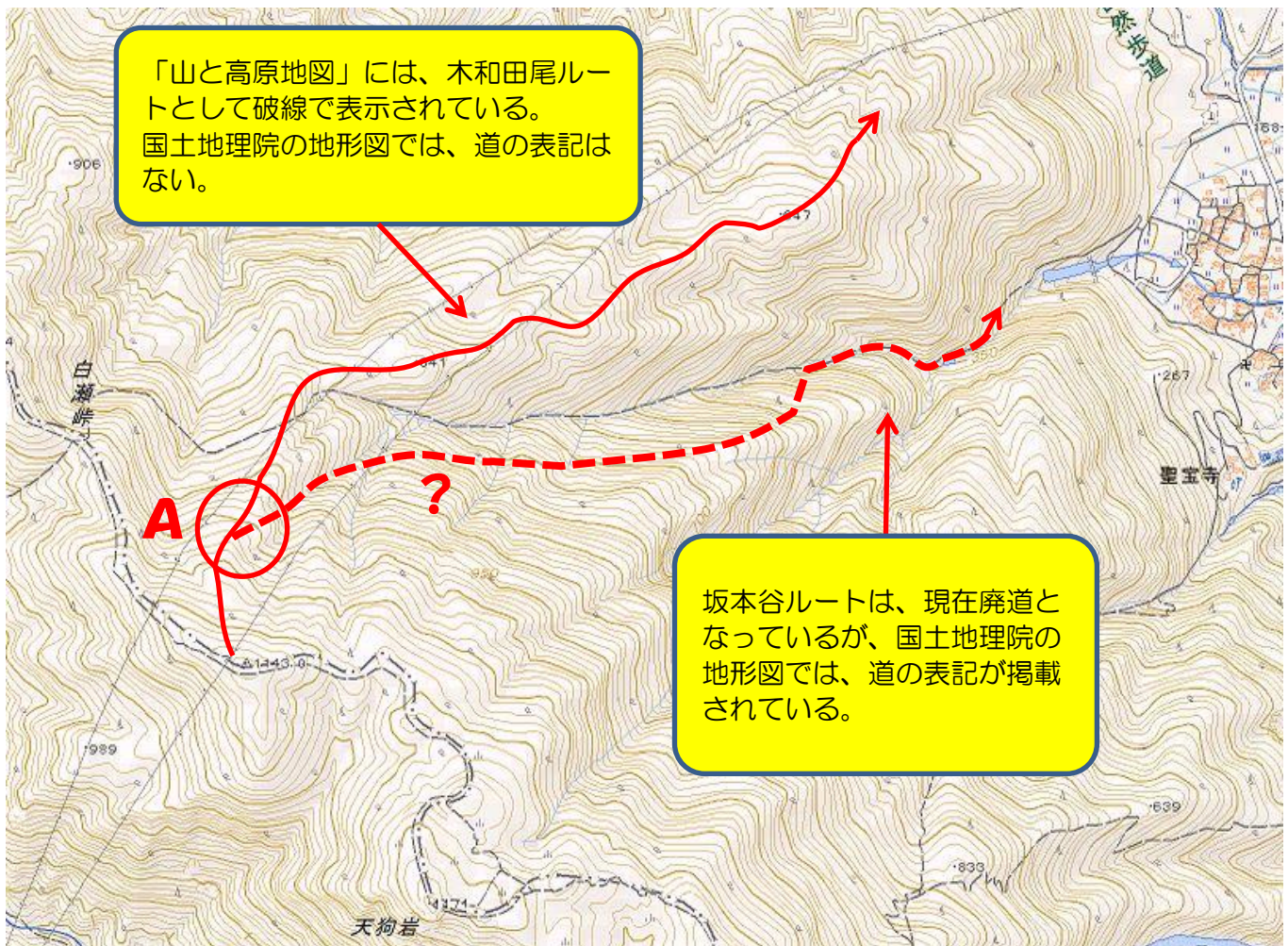


藤原岳遭難(2016年10月)

「山と高原地図」には、木和田尾ルートが掲載されており、気軽な気持ちで下山ルートに選択。道が不明瞭となり、沢に迷い込む。1夜ビバークしたが事なきを得た。



解説

1,143mピークからの木和田尾ルートは、①最初、下山道がはっきりしていたが、すぐに道が不明瞭になる。②道があるような無いような…。③そのまま下山したため、④登り返すのが大変であり、また、⑤進む方角はあっていると思い込んでいたため、⑥何とかかなると思い、⑦さらに下山を試みた。結果、警察に遭難救助要請をおこなった。

寒い夜をビバークし、翌日、林道付近で救助され事なきを得た。

道迷いの要素がすべて備わっている。典型的な道迷いパターンである。送電線を意識し、下山していたが、途中で送電線を見失い、完全に現在位置をロスした。

最も、神経を使うべき場所は、「A」地点だろう。木和田尾ルートは尾根ルート。少しでも尾根から外れ、沢が近づいたら「あれっ！おかしい」と思ったに違いない。「おかしいと思っていても、進んでしまう」これが、道迷いである。携帯アプリで現在位置を確認することを私は推奨している。道迷いを無くすためには何をしてもいいじゃない。